

◆◆◆ 予報技術者のための講習会「実践予報技術講習会」を開催しました

平成22年度の実践予報技術講習会は、予報技術者の技術レベルの向上を目指し、5月から毎週水曜日に開講しました。午後7時から9時までの2時間は受講生にとっては、あらためて気象現象の妙味、深淵を経験する良い機会となったのではないのでしょうか。

同講習会は今年度3回に分けて実施する予定で、その1回目を5月から7月にかけて開催しました。講座は5月に「基本コース」、6月に「実践コース」、7月に「応用コース」と月毎に講義内容を変え、受講生も各コース別に受講できるように設定しました。5月は気象現象と天気図の基本的な見方を、6月は解析した現象を情報に結びつけるところまでを、7月は衛星資料を中心にガイダンスなど多種多様な資料を駆使した気象現象の解析を体験していただきました。

講師は、予報官経験に加え当センターの主催する講座の講師経験も豊富な入田 央講師（元気象庁予報官）が務めました。経験豊富な講師とはいえ、2時間という短い時間のなかで講義内容全てを細かく説明するのは難しく、また、受講生にとっても講義時間内で受講内容の理解を進めることは大変なことで、多くの受講生が毎回の講義前後に講師に質問し、理解を補っていました。

受講生の多くは、講習会場が東京都千代田区にあることもあってか、関東から通われていましたが、なかには東は仙台、西は愛知県から通学される熱心な受講生もおられました。さらに5月の「基本コース」では出席率が95%を超えるなど熱心な受講態度に、気象に対する熱い思いがうかがえました。

6月に開講しました「実践コース」では、講義の冒頭に「クイックルック」として、気象予報士が着目すべき当日前後の気象現象を15分程度でコンパクトに説明する時間を設けたところ、受講生の好評を博しました。

この実践予報技術講習会は、9月からは第2シーズンが、また来年1月には第3シーズンが始まります。

第2シーズンの「基本コース」は9月8日（水）から毎週水曜日の午後7時から9時に開講します（9月29日までの全4回）。



講習内容は、台風を取り上げ、その気象現象としての構造や特徴を解説し、解析することで、台風をはじめとする大規模擾乱を観る実践力を養うことを目的とし、

- ・衛星画像、ウインドプロファイラ等の観測資料の特性の理解を含めて、資料の読み方の実習、
- ・地上天気図、高層天気図の解析と理解、
- ・数値予報資料の読解と気象現象の構造等についての理解、
- ・数多くの事例により各種気象現象の解析・理解の実習

に取り組みます。

10月開講の「実践コース」では秋雨前線を、11月開講の「応用コース」では、木枯しなどをもたらす発達する低気圧を取り上げる予定です。受講生の募集は、順次ホームページでお知らせします。

この実践予報技術講習会が、全国で7千人を超えた気象予報士の技術レベルの向上に少しでも貢献できることを期待しています。

（財団法人気象業務支援センター振興業務課長 齋藤三行）